

美容医療診療指針（令和3年度改訂版）活用状況調査に関する研究

分担研究者 橋本 一郎 徳島大学医学部形成外科学 教授
山本 有紀 和歌山県立医科大学医学部皮膚科学 准教授（病院教授）
杉山 文 広島大学大学院医系科学研究科疫学・疾病制御学 講師

研究要旨

本研究の先行研究である令和元年度厚生労働科学特別研究事業「美容医療における合併症の実態調査と診療指針の作成」において、美容医療に関係する日本美容外科学会 JSAPS、日本美容皮膚科学会 JSAD、日本美容外科学会 JSAS、日本形成外科学会 JSPRS、日本皮膚科学会 JDA の5学会から委員を選出し、顔面若返り治療と乳房増大術についての「美容医療診療指針」を作成した。完成した診療指針は、2020年11月に日本美容外科学会（JSAPS）機関誌の第42巻特別号として発刊した。その後、文献情報の更新や緊急性の高い項目の追加を行い、2022年10月に「美容医療診療指針（令和3年度改訂版）」（以下、本指針）を日本美容外科学会（JSAPS）機関誌の第44巻特別号として発行し、関連学会HPに全文掲載した。

本研究では上記の5学会に所属する施設等を対象に本指針の活用状況に関する調査を施行した。対象となった4,201施設中140施設から回答があり、回答率は3.3%であった。今後と同様の調査を行う際には回答率を上げる工夫が必要である。回答施設として最も多かったのはクリニック・医院であった。本指針の冊子体を所有しているもの、PDFを参考にしているものはそれぞれ34.8%、28.4%であった。冊子体をWEBで購入できることを知っているものは24.8%、学会ホームページからPDFをダウンロードできることを知っているものは42.6%にとどまっていた。各学会でのシンポジウムや討論会の開催などにより本指針の認知度をあげる取り組みが必要と考えられた。本指針において参考になったCQは、日常診療で治療頻度の高い疾患に関するものであった。追加すべきCQとして、最新の治療や施術が挙げられた。これらの結果を参考に今後の改訂に取り組む必要がある。指針を読んだ回答者は全員が「他の医師や他の医療機関に勧められる」と回答していることから、本指針の内容は高く評価されていると考えられた。

A. 研究目的

本研究の先行研究である令和元年度厚生労働科学特別研究事業「美容医療における合併症の実態調査と診療指針の作成」において、美容医療に関係する日本美容外科学会JSAPS、日本美容皮膚科学会JSAD、日本美容外科学会JSAS、日本形成外科学会JSPRS、日本皮膚科学会JDAの5学会から委員を選出し、安全な美容医療の提供を目的に顔面若返り治療と乳房増大術についての「美容医療診療

指針」を作成した。その後、令和2-3年度厚生労働科学研究費（地域医療基盤開発推進研究事業）「美容医療における合併症実態調査と診療指針の作成及び医療安全の確保に向けたシステム構築への課題探索」において、文献情報の更新や緊急性の高い項目の追加等を行い、「美容医療診療指針（令和3年度改訂版）」が作成された。美容医療診療指針（令和3年度改訂版）が作成されて以降、活用状況等が明らかではない

ことから、活用状況等を明らかにすることで指針の課題等を明確にし、更なる指針の活用等に繋げることを目的に調査を行った。

B. 研究方法

(1) 調査対象：

日本形成外科学会、日本皮膚科学会、日本美容外科学会(JSAPS)、日本美容外科学会(JSAS)、日本美容皮膚科学会会員の所属施設をはじめ、有害事象調査の対象となった4,201施設に勤務する医師(1施設につき医師1名)

(2) 調査内容：

- ① 普及率・入手方法
- ② 活用方法と評価
- ③ 現Clinical Question (CQ) の適切さ
- ④ 新CQの必要性

(3) 調査方法：

WEBアンケート調査(全国調査)

(4) 調査時期：2023年7月—12月

(5) アンケート内容(資料2)

- ① 勤務している施設について
- ② 認知度について
- ③ 上記のCQで参考になったものについて
- ④ 上記のCQで参考にならなかったものについて
- ⑤ 上記のCQの他に追加すべきCQについて
- ⑥ 美容医療診療指針は他の医師や他の医療施設に勧められるかどうかについて
- ⑦ 美容医療診療指針について、ご自身の具体的な使用方法、参照の方法について
- ⑧ 美容医療診療指針について、役に立った具体的な例やエピソードについて

本研究は獨協医科大学研究倫理審査委員会の承認を得た後に各分担研究者施設での倫理審査承認を経て実施された。

C. 研究結果

(1) 回答数：140(回答率3.3%)

(2) 調査結果：資料6参照

- ① 勤務している施設について
回答者の勤務先として最も多いのはクリニック・医院(67.1%)であった。
- ② 認知度について
2-1 全体の利用状況
回答者のうち、冊子体を所有している割合は34.8%、PDFデータを参考に行っている人は28.4%であった。
2-2 施設別利用状況

回答者の勤務施設別にみると、母数の多いクリニック・医院では冊子体とPDFは約30%でほぼ同数であった。

2-3入手方法について

冊子体をWEBで購入できることの認知度は24.8%、学会ホームページからPDFをダウンロードできることの認知度は42.6%であった。

③ 参考になったCQ

参考になったCQは、率が多いものから、日光黒子(老人性色素斑)、肝斑、後天性真皮メラノサイトーシス(acquired dermal melanocytosis: ADM)、次いでシワ、タルミに対するHIFU、ヒアルロン酸の適応、脱毛であった。

④参考にならなかったCQ

参考にならなかったCQはその率が多いものでも8.5%までであり、参考になったCQの割合と比較すると低かった。なかでも乳房増大に関するCQでやや高い傾向が見られた。

⑤ 追加すべきCQとして記載された項目

自由記載として回答を求めた追加すべきCQについては、下記A)～F)の6個の意見がそれぞれ1件ずつ出された。

- A)咬筋肥大症にボツリヌス菌毒素製剤による治療は有効か
- B) ざ瘡瘢痕の改善にダーマペンは無効か
- C)手術同意書の記載法について、法律に基づく解説
- D)顔面のシワ・タルミに培養線維芽細胞移植は無効か
- E)メソセラピーについて
- F)フィラーやボトックスなどの種類の解説や厚労省認可の有無について

⑥他の医師や医療施設に勧められるか

指針を読んだことのある回答者58人全員が、他の医師や他の医療機関に勧められると回答した。

⑦具体的な使用方法と参照方法

自由記載として回答を求めた具体的な使用方法、参照の方法については、下記A)～H)の8個の方法がそれぞれ1件ずつ出された。

- A)診療中に参照する。
- B)疑問が生じたときにPDFで参照する。
- C)一通り目を通して置く。
- D)有効性、リスク。有害事象の再確認 参考文献の渉猟に用いる。
- E)一通り読んで自分の方針と違う場合、

自分のしない手技について参考にする。

F) 専門家の共通認識として内容を患者さんに提供している。

G) 自分で疑問に思っている治療に際し参考とした。

H) 院内指針や施術メニューに依らない共通見解の確認

⑧役に立った具体例

自由記載として回答を求めた美容医療診療指針が役に立った具体的な例やエピソードについては、下記A)～D) の4個の例がそれぞれ1件ずつ出された。

A) 当院で実施していない治療方法を患者に勧められるか確認

B) 明らかな間違いの施術を希望する患者に治療拒否する際に、指針を患者に説明して納得してもらえた。

C) 患者さんへの説明に使用

D) 肝斑と他のシミが混在していることも多く、IPLを照射して問題ないことが明記されておりよかった。

D. 考察

回答率が3.3%と低率であり、回答バイアス等にも留意する必要があるものの、これまで明らかではなかった美容医療診療指針の活用状況を明らかにすることができたという点で意義があると考ええる。回答者の67.1%がクリニック・医院に勤務しており、参考になったCQで上位になった項目については日常診療で治療頻度が高い疾患に関するCQが挙げられていると考えられた。注目度が高いCQについては、今後の改訂作業においても重視する必要があるものと考ええる。

回答者全体の63.2%が冊子体もしくはPDFを参考にしてしたが、美容医療診療指針をWEBで購入できることを知っている回答者は24.8%、学会のホームページからダウンロードできることについて知っている回答者は42.6%であった。本美容医療診療指針は日本美容外科学会会報(JSAPS)の特別号として発刊されており、JSAPS、JSAS、日本形成外科学会、日本皮膚科学会、日本美容皮膚科学会のホームページからダウンロードも可能であることから、これらの学会に所属している医師は入手が容易であった可能性がある一方、それらの学会に所属していない医師は指針を入手できていない可能性がある。今後、本指針の認知度を上げるためには、学会への所属の有無や学会毎の認知度の差を明らかにする等した上で、効果的に指針の認知度を向上する

方法を検討する必要がある。

追加すべきCQとして挙げられた項目からは、新しい治療や施術に対して関心があることがわかった。また、既存の治療のアップデートも求められていることから、今後の改訂作業が必要である。

指針を読んだ回答者は全員が「他の医師や他の医療機関に勧められる」と回答していることや、参考となったCQの割合が参考にならなかったCQに比べて高率であることから、指針を読んだ回答者は本指針の内容を高く評価しているものと考えられた。

E. 結論

本アンケートに答えた医療者においては、美容医療診療指針が好意をもって受け入れられており、臨床の現場で活用されていることが判明した。

F. 研究発表

学会発表

シンポジウム8：安全な美容医療のシステム構築への取り組み（美容医療診療指針）

橋本一郎、山本有紀、杉本文、朝戸裕貴
美容医療診療指針活用調査の結果 診療指針の課題と展望

第42回日本美容皮膚科学会・学術大会 2024年8月31日

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

該当なし。

2. 実用新案登録

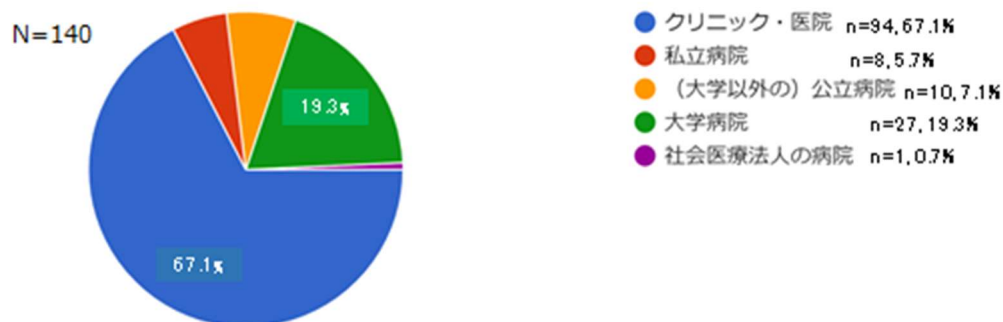
該当なし。

3. その他

該当なし。

回答者140人の勤務している施設

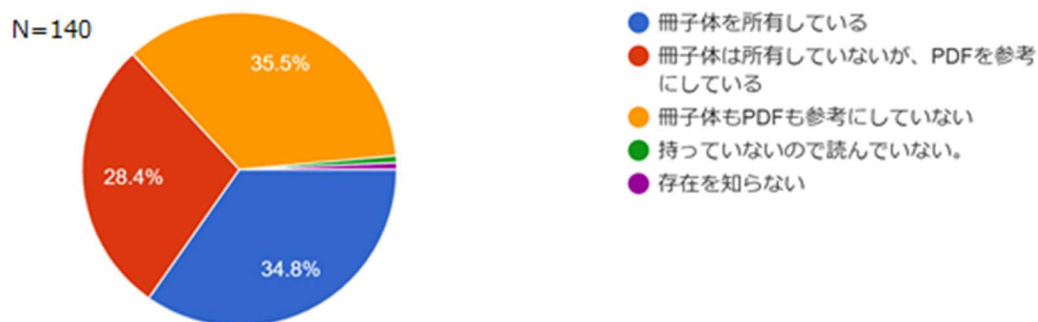
1) 勤務している施設についてお答えください。



■ 回答者の勤務先として最も多いのはクリニック・医院（約7割）

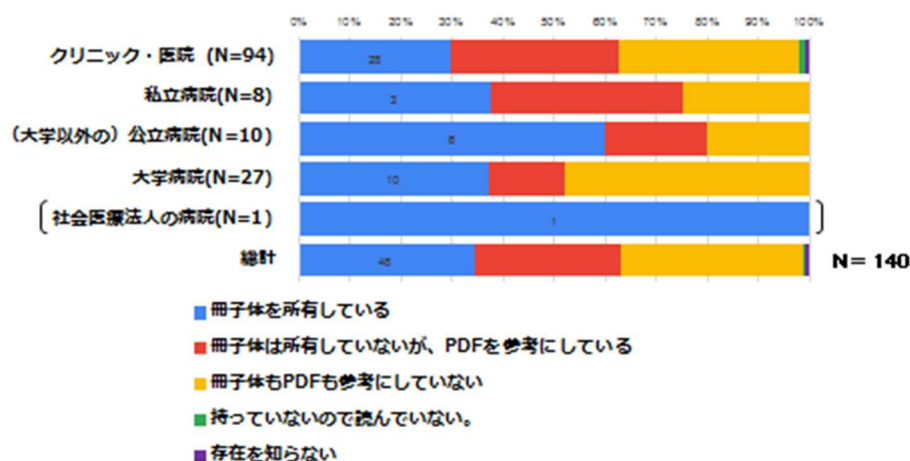
美容医療診療指針利用状況

冊子体を所有していますか？またPDFデータを参考にしていますか？



■ 回答者のうち、冊子体を所有している割合は34.8%、PDFデータを参考にしている人は28.4%。

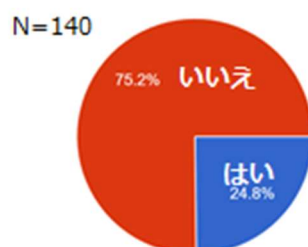
勤務している施設別にみた美容医療診療指針利用状況



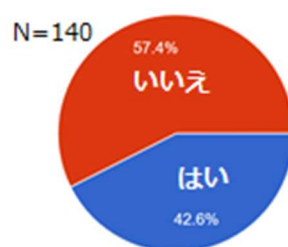
■ 母数の多いクリニック・医院では冊子体とPDFは約80%でほぼ同数

美容医療診療指針冊子・PDF入手方法の認知度

冊子体は誰でもWEBで購入できることを知っていますか。



PDFは日本美容外科学会(JSAPSおよびJSAS)、日本形成外科学会、日本皮膚科学会、日本美容皮膚科学会のホームページでダウンロードできることを知っていますか。

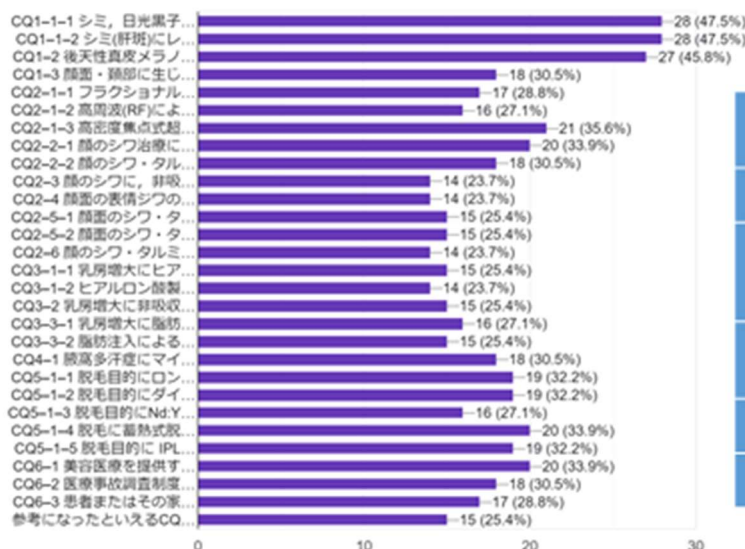


■ 冊子体をWEBで購入できることの認知度は24.8%、学会ホームページからPDFをダウンロードできることの認知度は42.6%。

美容医療診療指針の中で参考になったCQ (すべて選択)

3) 参考になったCQをすべて選択してください。

59件の回答

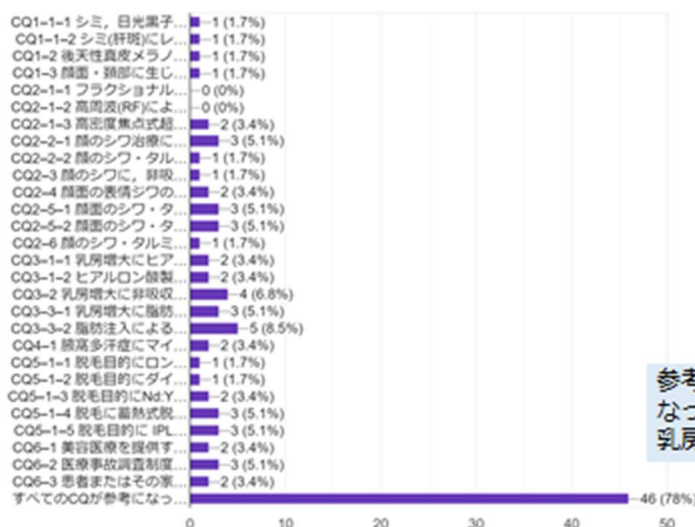


第1位	CQ1-1-1	シミ, 日光黒子(老人性色素斑)にレーザーや光治療(IPL)は有効か?
第2位	CQ1-1-2	シミ(肝斑)にレーザーや光治療(IPL)は有効か?
第3位	CQ1-2	後天性真皮メラノサイトーシス(acquired dermal melanocytosis:ADM)にレーザー治療は有効か?
第4位	CQ2-1-3	高密度焦点式超音波治療法(HIFU)による治療はシワ, タルミに有効か?
第5位	CQ2-2-1	顔のシワ治療に、ヒアルロン酸製剤注入は認められるか?
第5位	CQ5-1-4	脱毛に蓄熱式脱毛は有効か?

美容医療診療指針の中で参考にならなかったCQ (すべて選択)

4) 参考にならなかったCQをすべて選択してください。

59件の回答



参考にならなかったCQは8.5%までで、参考になったCQの割合と比較するとより低かった。乳房増大に関するCQでやや高い傾向が見られた。

美容医療診療指針は他の医師や他の医療施設に勧められるか

